

小林市教育研究センター

I	研究主題と副題	1
II	主題設定理由	2
III	研究目標	2
IV	研究仮説	2
V	研究組織	2
VI	研究構想	3
VII	研究の実際	3
	1 研究主題について	3
	2 実態調査からの研究内容の焦点化	4
	3 社会領域における指導方法の構築	5
	4 単元の指導計画の改善	5
	5 社会領域における評価の在り方	7
	6 生活科及び総合的な学習の時間での実施意義	8
	7 道徳及び学級活動との関連	9
	8 「こすもす科」の改訂準備について	9
VIII	研究の成果と今後の課題	10
	○ 参考文献		
	○ 研究同人		

I 研究主題と副題

児童生徒の「人間力」の向上を図る小林ならではの教育活動の創造
～小中一貫教育における「こすもす科」の確実な実践を通して～

II 主題設定理由

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進み、そのような中、我が国の教育をめぐる課題として、子どもの学ぶ意欲や学力・体力の低下、問題行動、家庭・地域の教育力の低下等が叫ばれて久しい。この現状を打開するために、国の「教育振興基本計画」（平成20年7月1日 閣議決定）では、「義務教育修了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる」ことを今後10年間の目指すべき教育の姿と位置付けている。まさに、子どもが自立した一人の人間として生きていくための総合的な力としての「人間力」向上の推進を図っていくことが求められていると言える。

本県では、「宮崎の教育創造プラン」の具現化のため、平成17年度より、第1期戦略プロジェクトが実施され、20年度からは第2期として「のびよ！宮崎の子どもたち」のスローガンのもと、「県民総ぐるみで子どもたちの『人間力』を育む教育の推進」が展開されている。その中では、「人間力」育成の取組として、一貫教育の推進体制の充実や社会生活を営む上で必要とされる態度や能力等の育成のための施策が推進されている。

小林市においては、「夢と生きがいをもった人を育てるまちづくり」が推進され、学校教育では「夢と元気と勇気ある小林教育」を基本目標として、小林で生まれたものが小林で育ち、小林で生きていく「地産・地育・地生」の教育を目指している。これまで二学期制を導入し、「知・徳・体・食」のバランスのとれた児童生徒の育成に取り組んできた。また、平成20年度には「小林市小中一貫教育基本計画」が基本指針として示され、平成21年度からは小林地区全小・中学校での一貫教育が実施されるとともに、「自ら目標をもち、未来をたくましく生きぬく子どもを育成する」ことを目標とした「こすもす科」の導入がなされてきた。

このような中で、本教育研究センターでは、平成18年度より「人間力」の向上を目指し、「小林市に誇りをもち、夢や生きがいをもって主体的に生きていこうとする力」の育成を目的とした学習内容の創造に向けて、自分・他者・社会の3領域の指導を通して自己育成能力、将来設計能力等の8つの能力を育む「こすもす科」を研究し、平成21年度からの本格実施に備えた。本格実施となった昨年度は、「こすもす科」の実践を図りながら、指導方法や評価方法等に関する小中学校教職員の課題を解決するための学習スタイルの構築と適切な評価の進め方の究明に努めた。しかし、自分・他者領域を中心とした研究であったため、社会領域における指導方法や評価の進め方、また、社会領域における学級活動等との学習内容の重複等に対する課題も残された。

そこで、本年度は「こすもす科」の確実な実践を通して、教職員の3領域における確実な指導力の向上と児童生徒への確実な8能力の定着を図るために、特に社会領域における指導方法や評価等について研究を進めていくこととした。また、野尻地区の合併を機に、「こすもす科」のさらなる充実をめざして、次年度の「こすもす科」の改訂に向け、自分・他者領域を含めた3つの領域での内容の見直しや野尻地区を対象とした新たな教材開発の準備、道徳や学級活動との関連の明確化等に重点を置いて研究を進めていく。さらに、地域社会の人材等の教育的資源を積極的に活用していくために、教職員及び保護者に限定していた広報誌の配付対象を拡大し、小林市民への「こすもす科」に対する理解の浸透を図るとともに、講師や関係機関との連携・協力を円滑に進めるための指導者用の手引きも作成することにした。

以上、本市の教育の実態を念頭に、その課題解決とともに、さらなるよさの伸長を図るべく、「こすもす科」の確実な実践を通じた教職員の3領域における指導力向上と児童生徒への確実な8能力の定着を図るための研究を進め、本市の児童生徒の「人間力」の向上を図っていくことを考え、本主題を設定した。

III 研究目標

小林市の児童生徒の実態や教育の現状を踏まえて、自分・他者・社会の3領域による8能力を育む指導を通して「人間力」の向上を図ることをねらいとした小林ならではの教育活動を創造する。

IV 研究仮説

「こすもす科」の指導において、次のような手立てを行えば、確実な実践を通して教職員の3領域における指導力の向上と児童生徒への確実な8能力の定着を図るためのよりよい実践が図られ、児童生徒の「人間力」の向上につなげることができるであろう。

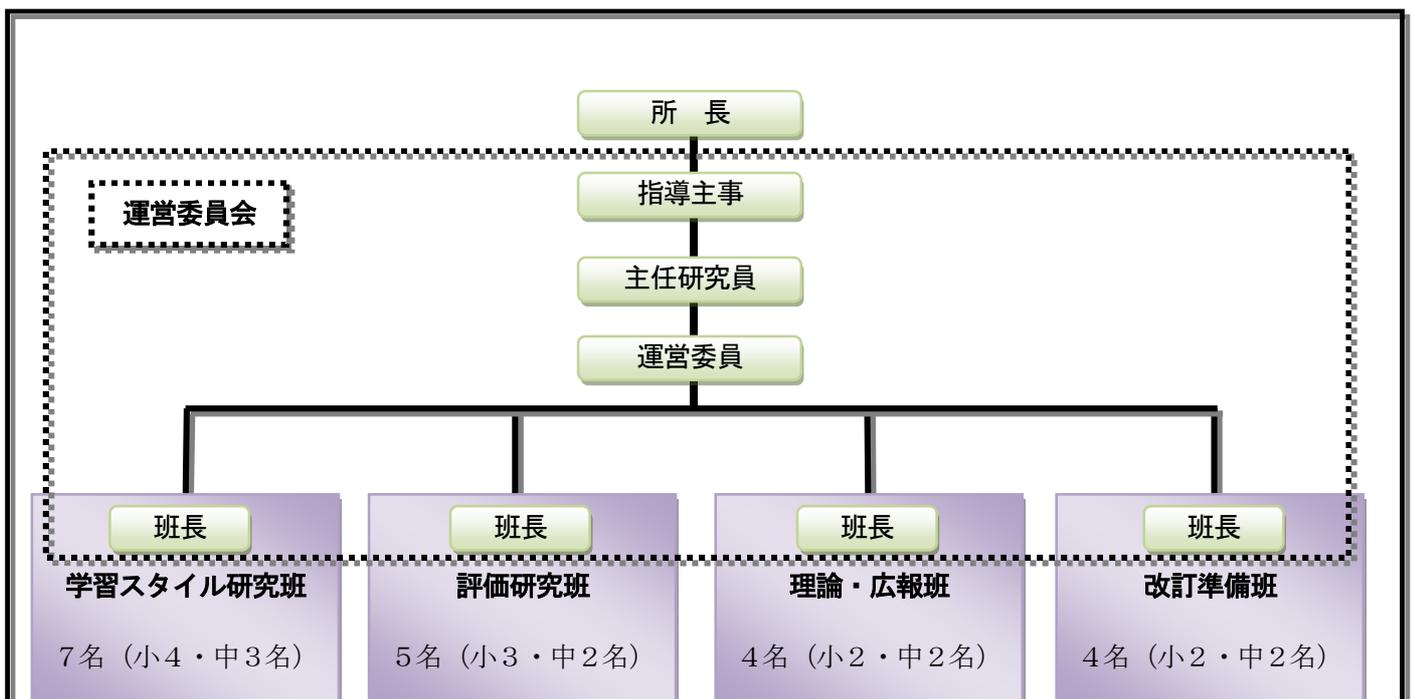
- (1) 社会領域における実践上の課題を明確にし、より効果的な指導方法を構築する。
- (2) 社会領域において評価規準的な位置付けとなる「めざす児童生徒像」を設定し、適切な評価の進め方を確立することで、指導と評価の一体化を図る。
- (3) 生活科及び総合的な学習の時間で「こすもす科」を実施する意義、道徳や学級活動との関連の明確化を図るとともに、広報誌による「こすもす科」の浸透を図る。
- (4) 平成24年度からの「こすもす科」の市全体における完全実施（旧野尻町を含む）を踏まえ、「こすもす科」のさらなる充実に向けた児童生徒用テキスト及び指導者用手引きの修正等、改訂のための準備を推進する。

V 研究組織

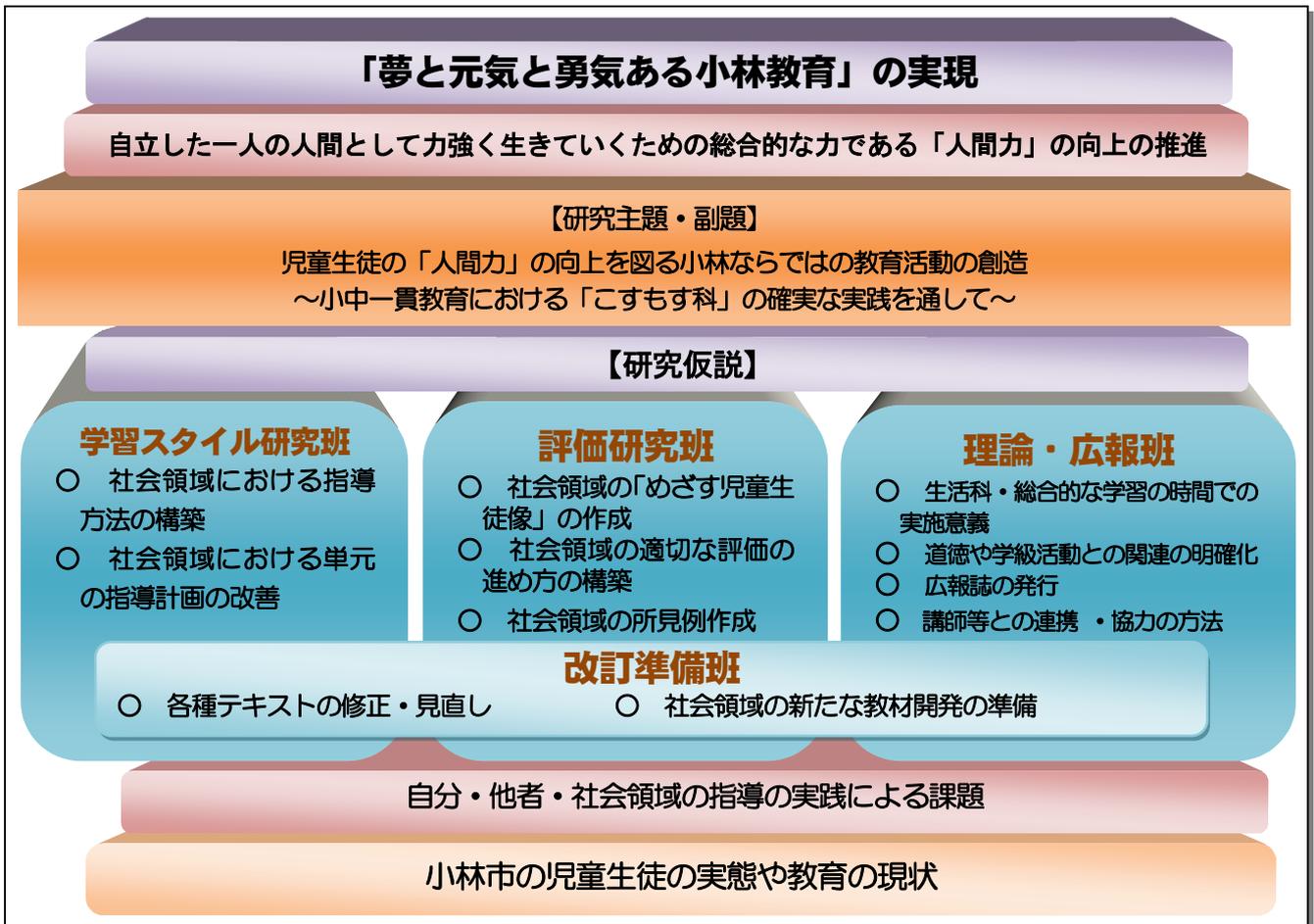
研究班を次の4つの班で構成した。

- 社会領域における指導方法の構築を研究する「学習スタイル研究班」
- 社会領域における適切な評価の進め方を研究する「評価研究班」
- 「こすもす科」の理論の整理と広報誌による「こすもす科」の浸透を図る「理論・広報班」
- 各種テキストの修正や学習内容の見直し、新たな教材開発等、次年度の改訂に向けた研究をする「改訂準備班」

また、各班のつながりを考慮し、指導主事、主任研究員、運営委員、班長による運営委員会を設置し、研究の調整を図ることとした。



VI 研究構想



VII 研究の実際

1 研究主題について

(1) 「人間力の向上」

本研究センターでは、「人間力」を人間力戦略研究会報告書（内閣府 平成15年4月）で定義された「人間力」を基本として、「自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義している。

この人間力の構成要素「主体性・自律性」「自己と他者との関係」「個人と社会との関係」をそれぞれ「自分領域」「他者領域」「社会領域」として設定した。さらに、それぞれの領域で必要とされる「能力」を8つ設定し、その8つの能力を3領域を通して育み、「人間力の向上」を図ることとした。

領 域	自分領域	他者領域	社会領域
育 てる 能 力	自己育成能力 責任遂行能力	コミュニケーション能力 集団参画能力	環境保全能力 文化的活動能力 地域貢献能力 将来設計能力

人間力の向上

(2) 「こすもす科」の実践

小林市に誇りを持ち、夢や生きがいをもって主体的に生きていく力を育てるため、「こすもす科」を創設し、昨年度より本格実施している。「こすもす科」の目標の柱は次の2つである。

- ① 小林市民としての自覚を持ち、自己の主体性・自律性や他者・社会との関係形成能力を身に付けさせる。
- ② よりよい人生を創り出していくための豊かな人生観や望ましい価値観の基礎を養う。

この目標を達成するための教育活動を創造し、確実に実践することで、「自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」である「人間力」の育成を目指している。

2 実態調査からの研究内容の焦点化

市内の小中学校全教職員にアンケートを実施し、昨年度からの「こすもす科」の実践を通して明確となった課題を把握するとともに、本研究センターで解決すべき研究内容の焦点化を図った。アンケートは3項目で、選択式（1項目1選択）及び選択理由の記述式で実施した。〔調査対象148人 ※ 質問項目によって変動〕

(1) 「こすもす科」の社会領域における指導方法の在り方について、特に課題であると思われる項目

	選 択 項 目	人数
ア	児童生徒用テキストの活用方法	6
イ	指導者用手引きの活用方法	3
ウ	ホップ・ステップ等の指導方法	32
エ	教材・教具の工夫・充実	42
オ	掲示物等の作成	5
カ	1単位時間当たりの学習内容の時間配分	12
キ	指導案形式	9
ク	単元の年間配列・内容	16
ケ	児童生徒への各単元の目標のもたせ方	14

【 課 題 】

- 自分・他者領域との4段階の位置付けや指導方法の違いが不明確で、十分に浸透していない。
- 社会領域は長時間の単元が多いが、児童生徒の学習意欲を継続する単元の指導計画となっていない。

【 解決策 】

- 自分・他者領域同様に、社会領域の4つの段階における指導方法の構築
- 単元の指導計画の改善

(2) 「こすもす科」の社会領域における評価の在り方について、特に課題があると思われる項目

	選 択 項 目	人数
ア	社会領域の4つの能力に対する評価規準	18
イ	社会領域における具体的な評価の流れ	5
ウ	1単位時間の評価方法	9
エ	単元ごとの評価の在り方	7
オ	通知票や指導要録での評価の在り方	33
カ	高校入試等との関連	6
キ	効果的な評価方法	28
ク	児童生徒の変容のとらえ方	21

【 課 題 】

- 社会領域の4つの能力の評価規準が抽象的で評価の視点が明確ではない。
- 長時間での単元に適した評価方法が構築されていない。
- 通知票・指導要録への評価の方法が明確ではない。

【 解決策 】

- 社会領域の評価規準である「めざす児童生徒像」の作成
- 社会領域における適切な評価の進め方の作成
- 通知票・指導要録での評価の参考となる社会領域における所見例の作成

(3) 「こすもす科」と各領域等との関連を明確にする視点から、特に課題と思われる項目

	選 択 項 目	人数
ア	生活科・総合で実施することへの課題	49
イ	道徳の時間との関連で課題	13
ウ	特別活動との関連で課題	48

【 課 題 】

- 「こすもす科」を生活科及び総合的な学習の時間で実施する意義が共通理解されていない。
- 学級活動との学習内容の重複が多く、効率的ではない。

【 解決策 】

- 生活科・総合的な学習の時間での実施意義を明確にした共通実践
- 学級活動との学習内容の関連の明確化と社会領域の単元の指導計画の改善

3 社会領域における指導方法の構築

本年度は、社会領域における4つの段階の指導方法について学習スタイルを構築していくことにした。自分・他者領域はホップ・ステップ・ジャンプ・ランディングの4段階を通して、指導内容をできるようにするというスタンスに対して、社会領域は、4段階を通して小林市や自分の将来に対する思いや考えを高めていこうとするものである。社会領域の単元は、郷土小林を扱う内容と将来の夢を扱う2つの内容がある。郷土小林を扱う内容では、地域の伝統・文化や自然を理解するとともに、現代社会の仕組みについて認識を深め、自分なりの考えをもつことをねらいとし、育てる8つの能力の中の環境保全能力や文化的活動能力、地域貢献能力を育成することとしている。

また、将来の夢を扱う内容では、職業や上級学校の理解を深め、自分の将来について具体的に考えることをねらいとし、将来設計能力を育成することとしている。

効果的に諸能力の育成を図るために、「社会領域」における基本的な学習スタイルを次の表のように展開することが必要だと考えた。

学習スタイル	問題解決的な学習			
	ホップ	ステップ	ジャンプ	ランディング
4段階の名称とねらい	単元の内容の課題に気付かせる。	課題解決を図るための方法を話し合わせたり体験活動を行ったりする。	話し合いや体験活動を通して、課題解決を図らせる。	自分の取組について評価し、よりよいものを考えさせる。
郷土小林を扱う内容の力点	① 小林市の自然や祭り、PR活動などについての話し合い ② 学習課題の設定	① 調べるための外部人材、施設の活用	① 自分たちにできること(話し合い) ② 計画したことの実践	① 自分の取組の振り返り ② 小林市に対する思い
将来の夢を扱う内容の力点	① 保育園・幼稚園、様々な職業・上級学校の理解 ② 学習課題の設定	① 将来の夢を考えるための外部人材、施設の活用	① 将来の計画、進路計画の作成	① 自分の取組の振り返り ② 自分が頑張ることや生き方の整理

これまで上の表のような流れで学習を進めてきたが、各段階のねらいに即した指導計画が十分に立てられていないという課題が見えてきた。そこで、各段階でのねらいや指導の力点の達成を図るために単元の指導計画の改善を行うことにした。

4 単元の指導計画の改善

効果的に諸能力の育成を図る指導計画にするために改善の視点を明らかにして、よりよい指導計画をつくっていくことにした。

(1) 改善の視点

- 児童生徒の学習意欲が継続しやすい学習の流れかどうか。
- 取り上げる教材は適切かどうか。
- 指導内容は適切に押さえられているかどうか。
- 単元内の時数配分は適切かどうか。
- 関係機関、外部人材との連携は適切かどうか。

(2) 改善内容

- 単元全体の学習課題をホップ段階で設定し、問題解決的な学習の展開で学習を進めながら単元の目標と指導内容が達成できるような指導計画へ改善する。
- 郷土小林を扱う内容で取り上げる教材、関係機関や外部人材の活用方法を見直す。
- 指導内容を押さえ、4つの段階で取り入れる学習活動を計画する。
- 単元内の時数配分の見直しと学習内容の順序性を見直す。

(3) 指導計画の改善例

小学校第6学年「ライフ・夢プラン」では、指導の力点を押さえながら「単元全体を考えた学習課題の設定」と「児童の学習意欲や意識が継続しやすいような学習内容の順序」、「単元内の時数配分」の視点で指導計画を改善した。

小学校第6学年 ライフ・夢プラン		改善した指導計画	
従来の指導計画 (指導時数7時間)		改訂した指導計画 (指導時数7時間)	
段階	学習内容及び学習活動	段階	学習内容及び学習活動
ホップ	1 めあてを理解する。	ホップ (1)	1 様々な職業を知る。 2 学習課題を設定する。 自分の将来の計画を立てよう。
ステップ (1)	1 将来の夢を実現するために、今後の生き方を考えよう。 2 自分の将来の夢やなりたい職業を書いて発表する。 3 夢を実現するために、今後どのように生きていけばよいか考える。	ステップ (1)	1 将来の計画を作成するために考えるべき視点を明確にする。 ・ 働いている方々の思い ・ 考える視点
ジャンプ (5)	1 めあてを理解する。 自分の将来の夢プランを立てよう。 2 自分のよいところと興味のあることを確認する。 3 どんな職業があるか調べる。 4 自分のよさや課題及び適性を考えながら将来なりたい職業を決める。 5 その職業に就くために中学校以降の学校の進路を調べる。 6 夢プランを完成させ、発表する。	ジャンプ (4)	1 将来の計画を作成する。 進路、技術や資格、職業への思いや工夫、努力 2 0歳までのプランを作成する。 自分のよさと課題を関連させて作成する。 2 将来の計画の発表会をする。 ・ 発表後、見直す視点をつかむ
ランディング (1)	1 めあてを理解する。 自分の夢プランを見直そう。 (1) 2 友達や保護者からもらった助言をもとに、自分自身の夢プランを見直す。 3 学習のまとめをする。 () 内は指導時数である。	ランディング (1)	1 将来の計画を見直す。 ・ 友達の発表を参考に自分の計画を見直す。 2 自己を振り返り、今後の将来の夢に向けて自分が取り組むべき事項を考える。 () 内は指導時数である。

学習の流れが課題

変更

ホップの力点①②

ステップの力点①



働いている方々の思いを知るために外部人材の活用 (ビデオレター)

解決方法を話し合う。



将来設計で考える視点を付箋紙で分類



全体で協議

ジャンプの力点①

ランディングの力点①②

中学校第3学年「夢に向かって」では、「段階のねらいに沿った学習内容」や「単元内の時数配分」の視点で指導計画を改善した。

中学校第3学年 夢に向かって		改善した指導計画	
従来の指導計画 (指導時数19時間)		改訂した指導計画 (指導時数19時間)	
段階	学習内容及び学習活動	段階	学習内容及び学習活動
ホップ (4)	1 社会人の声を聞き、働く意義を知る。 2 職業選択について考える。	ホップ (4)	1 学習課題を知る。 将来の夢に向かって進路を決定しよう。 2 自分が就きたい職業を調べ、さらに職業への理解を深める。 3 その夢を実現するために何が必要かを考える。
ステップ (6)	1 自分の希望進路先を調査する。 2 体験入学の準備をする。 3 体験入学で学んだことを伝え合う。	ステップ (7)	1 職業・夢へつなげる進路を考え、選択する。 ・ 高校を調べる。 ・ 体験入学に参加する。 ・ 体験入学報告会の準備をする。 ・ 体験入学報告会を開く。
ジャンプ (2)	1 進路計画を見直し、希望進路先を決定する。	ジャンプ (7)	1 自分の希望する進路を決定し、これに向けて努力する。 ・ 進路計画を立てる。 ・ 自己アピールカードを作る。
ランディング (7)	1 文章を使って、自己アピールをする。 2 言葉を使って、自己アピールをする。 () 内は指導時数である。	ランディング (1)	1 自分の取組を振り返り、自分の夢の達成に向けて進路選択の仕方、自分の努力の在り方を考える。 () 内は指導時数である。

変更

ホップの力点①②

ステップの力点①

ジャンプの力点①②

ランディングの力点①②

ステップの力点1



高校体験入学で学んだ特色の紹介



各学校の報告を聞いての感想
生徒Aは、「教師になるために普通科の高校に行きたいが、A高校よりB高校の方がゆっくり学習するスタイルなので、自分に合っていると思う」と発表する。

段階のねらいに沿った指導や単元内の時数配分が課題

5 社会領域における評価の在り方

(1) 社会領域の「めざす児童生徒像」

社会領域における評価基準が抽象的で評価が困難であるという課題を解消するために、「めざす児童生徒像」を設定し能力の達成度を評価することとした。

社会領域は、一単元に複数の能力及び指導項目が存在する。そのため、社会領域の一単元の時数は多く、それぞれの段階（ホップ、ステップ、ジャンプ、ランディング）で確実に指導を行い、能力を身に付けさせる必要がある。

そこで、社会領域の「めざす児童生徒像」を作成するにあたっては、単元の目標に提示されている能力から、それぞれの段階において身に付けさせたい能力の指導項目を検討し、それぞれに「めざす児童生徒像」を作成した。

第3学年「小林たんけん隊Ⅰ」の場合

【能力と指導項目】環境保全能力 ～ア 環境や自然の理解

地域貢献能力 ～ウ 各機関の役割と働き エ 地域のためにできること

【単元の目標】○ 小林市の自然環境に関心をもつとともに、豊かな自然を大切に守っている人々の取組について理解することができる。

○ 小林市の自然環境を守るための取組について理解し、小林市民の一人として、自分たちにできそうなことを決め、取り組むことができる。

段階	能力	指導項目	めざす児童生徒像
ホップ	環境保全	ア 環境や自然の理解	自然豊かな小林市のよさを理解することができる。
ステップ	環境保全	ア 環境や自然の理解	ホタルの生態を調べる活動を通して、出の山は市の湧水や清流などの貴重な水資源となっていることを理解することができる。
	地域貢献	ウ 各機関の役割と働き	出の山の豊かな自然環境を大切に守っている人々の取組について理解することができる。
ジャンプ	地域貢献	エ 地域のためにできること	ホタルのことを伝える取組やホタルを守るための取組について、自分たちにできることを考え、実践することができる。
ランディング	地域貢献	エ 地域のためにできること	小林市の自然環境を守っていこうとする気持ちを表現することができる。

(2) 社会領域の適切な評価の進め方の構築

自分・他者領域における評価方法を踏襲しながら、「指導と評価の一体化」、「効率的かつ児童生徒の変容をとらえられる蓄積可能な評価方法」をめざして、社会領域の適切な評価の進め方を構築していくこととした。

【適切な評価の進め方】

- ① 当該学年の単元名、8つの能力、最終的に選択する「特によいと認められる能力」欄を入れた「評価一覧表」を作成する。
 - 指導時数が多く、指導項目も多岐にわたる社会領域の4つの能力については、ホップ・ステップなどの段階ごとに欄を設け、評価を蓄積できるようにする。
- ② 各単元の指導を実施する。
 - 各段階の「めざす児童生徒像」の評価ができるように、ワークシート等に自己評価欄を作ったり、記述式の振り返り欄を設けたりしていく。
- ③ 各段階終了後、「めざす児童生徒像」をもとに評価し、達成度を評価一覧表に記入していく。
 - 指導時数が多い社会領域においては、ホップ、ステップなどの段階の終了毎に評価を行っていく。
 - 評価については、「めざす児童生徒像」の達成の有無で「○」「ノーチェック」で記入し、また、活動で児童生徒が特に意欲的に取り組み、大きな成長が見られ、そのねらいとする能力の伸びが顕著であった能力については「↑」を記入していく。なお、「めざす児童生徒像」を達成し、かつ大きな成長が見られた能力については「○↑」を記入していく。
- ④ 「特によいと認められる能力」を選択していく。
- ⑤ 「所見」を作成する。

【評価一覧表】小学校第3学年の例

領域		自分					他者			社会				特によいと認められる能力	
能力		自己育成			責任遂行		コミュニケーション	集団参画	環境保全	地域貢献					
単元名		ていねいな言葉	自分が使ったものは	どうしてつめを切るの	元気な体	お手伝いをがんばろう	家での勉強の仕方	あたにかい言葉かけをしよう	話し合い方を学ぼう	みんなでやってみようIII	小林たんけん隊I				
指導項目		礼儀作法	整理整頓	身なり	健康	お手伝い	家庭学習	会話の仕方	話し合いの仕方	自治的な活動	環境や自然の理解	各機関の役割と働き	地域のためにできること		
段階		ホップ	ステップ	ステップ	ジャンプ	ランディング									
1	小林 太郎	○		○		○		○	○		○		○	○	コミュニケーション
2	三松 次郎		○		○↑	○	○	○↑		○	○↑	○			環境保全
3	細野 三郎	○		↑			○		○			○		○	地域貢献

(3) 社会領域の通知票及び指導要録の所見例

選択した「特によいと認められる能力」について、選択した根拠を明確に表すために、原則として次の3つの視点から所見を構成することとした。

- ① 単元名 ~ 「特によいと認められる能力」が学習のねらいとされる単元を記入する。
- ② 活動の様子 ~ 調べ学習や体験活動、話し合い活動など児童の活躍した様子について、具体的に記入する。
- ③ 変容の姿 ~ 社会領域においては、複数の能力で構成されている単元があるが、選択した「特によいと認められる能力」について、②の活動を通して培われ変容した姿を記入する。

【所見例】

特によいと認められる能力	所見
環境保全	○ 「小林たんけん隊I」の学習では、 <u>自然豊かな出の山の湧水を守るために、</u> ① <u>自分が学校や家庭でできることとして</u> ② <u>節水のポスターを作成し、</u> ③ <u>率先して節水する姿が見られました。</u>

6 生活科及び総合的な学習の時間での実施意義

生活科及び総合的な学習の時間で「こすもす科」を実施する意義を簡潔に述べると、「目標及び手法や内容との一致があるから」である。それを示したのが、次ページの図である。

また、改訂前の生活科や総合的な学習の時間には、次のような実践上の課題があった。

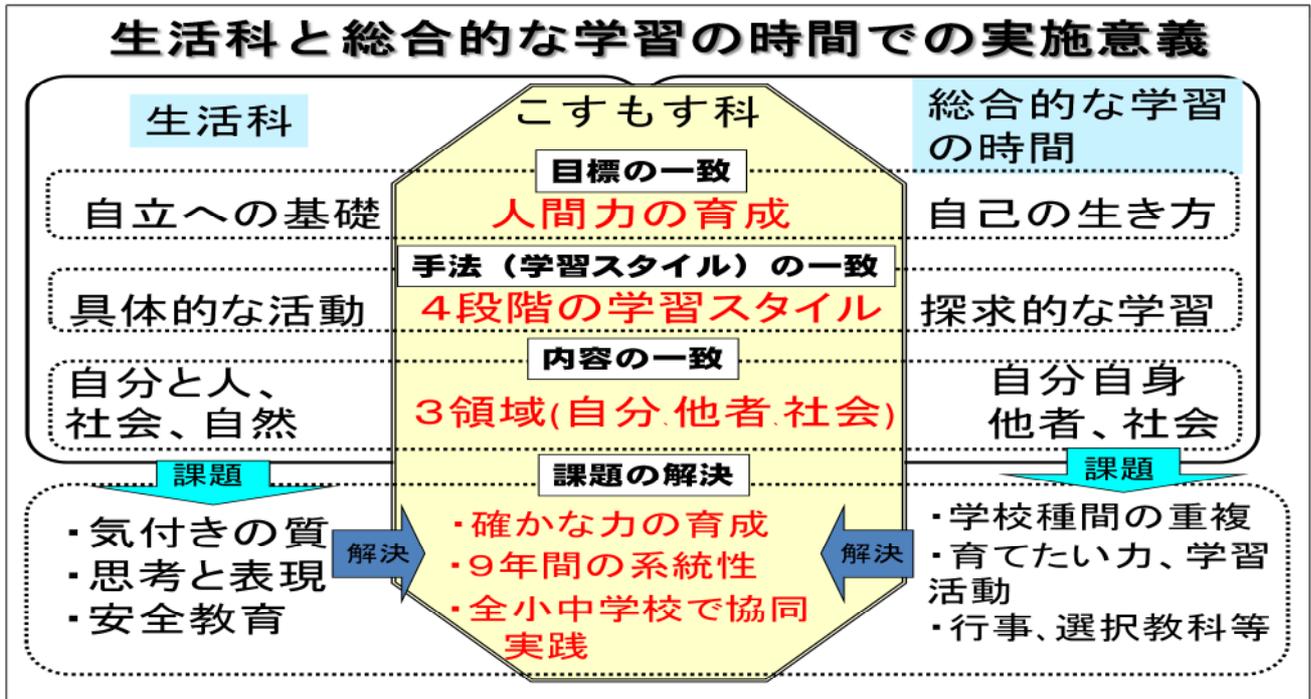
【生活科の課題】	【総合的な学習の時間の課題】
○ 気付きを質的に高める指導が不十分	○ 学校種間の取組の重複
○ 思考と表現の一体化を図る指導が不十分	○ 育てたい力、学習活動の示し方が不十分
○ 安全教育の実践不足	○ 行事や選択教科等との混同

「こすもす科」には、これらの課題を解決できる3つの特色があると言える。

- 確かな力の育成を目指した指導 ○ 系統性が明確 ○ 全ての小中学校で協同実践

「こすもす科」には、その学習スタイルの中に、実践の場や振り返りの段階が設定されている。これらの段階を通して、確かな力の育成を目指した指導である。この指導により、「気付きを質的に高める指導」や「思考と表現の一体化を図る指導」が可能になり、より確かな力を育成することができ、生活科の課題を解消することができる。

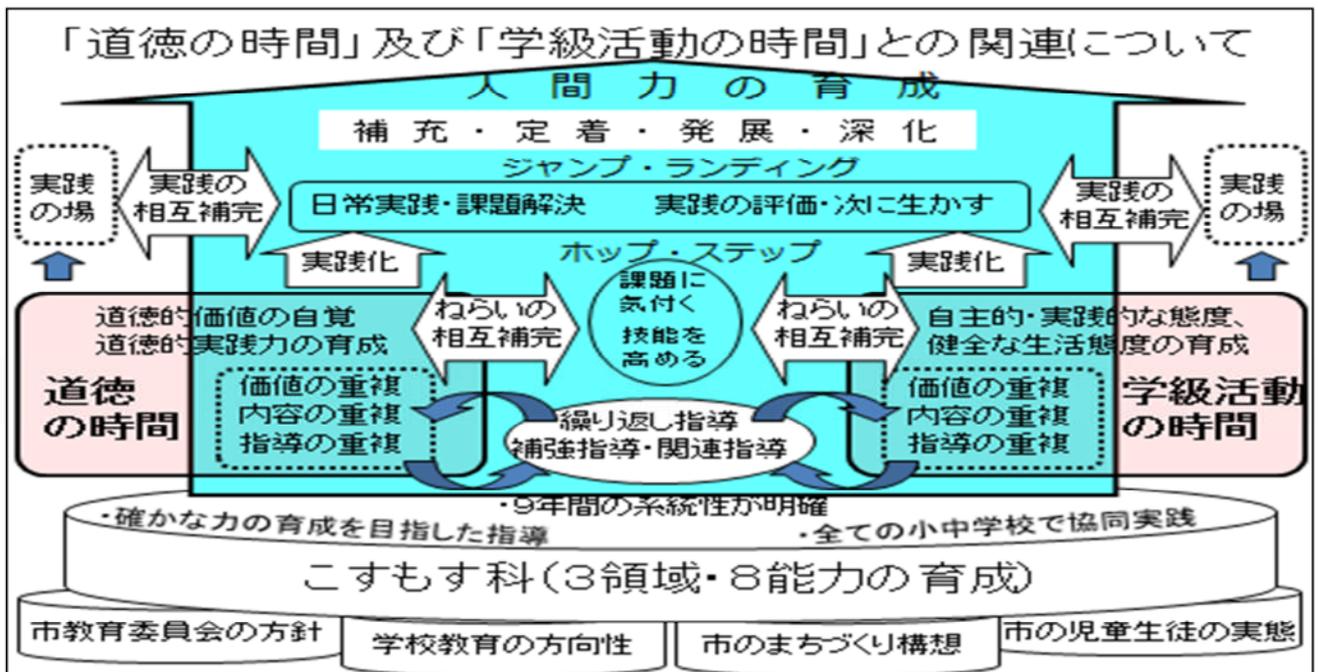
また、9年間を見通した系統性が明確である。小学1年生から中学3年生までの学習活動やねらいが明確に設定されており、児童生徒用のテキストや教師用の指導の手引きも整備されている。このことにより、総合的な学習の時間における課題は解決することができる。さらに、小林市の児童生徒の「人間力」の向上を願って創造された「こすもす科」は、市全体での協同実践である。「こすもす科」の学習内容は、市内全ての小中学校の児童生徒が学ぶことができる。(野尻地区は平成24年度完全実施)



「こすもす科」は、現在も改訂作業が進められているが、今後も引き続き小林市の教職員全員が関わって改訂作業や指導方法の改善が進められることになる。この過程を通して、教材開発力や指導力の向上といった「教師力」の向上も図られることになる。

7 道徳及び学級活動との関連

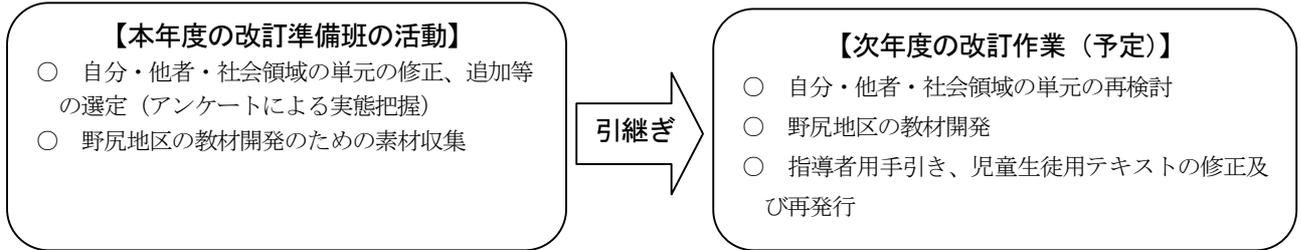
道徳及び学級活動との関連を簡潔に述べると、「相互補完」である。こすもす科では、人間力の育成のために、特に重要と思われる学習内容を設定している。そのため、道徳や学級活動の時間とこすもす科では、ねらいや実践の内容に重複があるが、繰り返し指導、補強指導、関連指導を行うことで、「ねらいの相互補完」「実践の相互補完」が図られ、より効果的な指導が可能となる。これらのことを図に示すと、以下の通りである。



8 「こすもす科」の改訂準備について

自分・他者・社会領域の実践から出された課題解決や野尻地区合併に伴う新教材開発等、小林市では、平成24年度の市全体での「こすもす科」の完全実施に備えて、次年度以降、10年間程度にわたる実施を念頭に置いた改訂作業を行う予定である。

そこで、本年度、「改訂準備班」を設置して、その改訂作業が円滑に進むための準備を行った。



VIII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 社会領域の検証授業及び単元の指導計画の改善を通して、ホップ・ステップ・ジャンプ・ランディング段階のねらいに沿った指導の力点を全単元で明確にすることができた。
- (2) 社会領域の単元の目標と学習内容との整合性を見直すことを通して、評価規準としての「めざす児童生徒像」を全単元で設定することができた。また、社会領域における指導と一体化した適切な評価の進め方を明確にすることができた。
- (3) 「こすもす科」を生活科及び総合的な学習の時間で実施する意義について、従来までの理論を整理し、その利点を中心としてまとめていくことを通して、その意義がより明確となり、市内全教職員の共通理解を図る土台を構築することができた。また、社会領域の単元の指導計画を改善することを通して、学級活動の学習内容との系統性、連動性を明確にすることができた。

2 今後の課題

- (1) 2年間の実践を通して構築された指導方法や評価の進め方についての研究を今後、市内全教職員と共通理解を図り、実践を深めていく必要がある。
- (2) 「こすもす科」の指導を通じた児童生徒の変容を把握する機会の設定とその結果に対する手立てを考えていく必要がある。

○ 参考文献

- ・『小学校学習指導要領』株式会社東洋館出版社
- ・『中学校学習指導要領』株式会社東洋館出版社
- ・『宮崎の教育創造プラン～宮崎ならではの教育～』宮崎県教育委員会
- ・『小林市教育推進プラン』小林市教育委員会
- ・『小中一貫教育基本計画』小林市教育委員会

○ 研究同人

所 長	佐藤 勝美(小林市教育委員会教育長)			
主任指導主事	西田幸一郎(小林市教育委員会学校教育課教育指導監)	研 究 員	金丸 昭(小林市立三松小学校 教諭)	
指導主事	盛満 政仁(小林市教育委員会学校教育課指導主事)	研 究 員	下野 雅代(小林市立細野小学校 教諭)	
指導主事	畑 中 勉(小林市教育委員会学校教育課指導主事)	研 究 員	郷田良太郎(小林市立東方小学校 教諭)	
主 事	永野 真吾(小林市教育委員会学校教育課主事)	研 究 員	齊藤 彰子(小林市立幸ヶ丘小学校 教諭)	
主任研究員	菅 朋 教(小林市立西小林中学校 教頭)	研 究 員	藤川 純(小林市立須木小学校 教諭)	
運営委員	阿部 泰宏(小林市立小林小学校 教諭)	研 究 員	一木 季次(小林市立野尻小学校 教諭)	
班長(学習)	岩切 隆人(小林市立南小学校 教諭)	研 究 員	秋岡 裕子(小林市立栗須小学校 教諭)	
班長(評価)	杉田 知穂(小林市立永久津小学校 教諭)	研 究 員	村岡 佳子(小林市立紙屋小学校 教諭)	
班長(理論)	大木場俊弘(小林市立西小林小学校 教諭)	研 究 員	村中田 学(小林市立細野中学校 教諭)	
班長(改訂)	黒木 良一(小林市立東方中学校 教諭)	研 究 員	原屋敷貴子(小林市立永久津中学校 教諭)	
研 究 員	田口 絹代(小林市立西小林中学校 教諭)	研 究 員	日高 由文(小林市立三松中学校 教諭)	
研 究 員	鈴木 一成(小林市立小林中学校 教諭)	研 究 員	平川純一郎(小林市立野尻中学校 教諭)	
研 究 員	曾山 正人(小林市立須木中学校 教諭)	研 究 員	福松 直樹(小林市立紙屋中学校 教諭)	